

高校女子バレーボール部員対象
「ビーチバレーに関するアンケート」報告書

2016年3月

産業能率大学スポーツマネジメント研究所

巻 頭 言

高校女子バレーボール部の監督・顧問の先生方へ

本報告書はビーチバレーボールU-21日本代表も経験した清水友菜の卒業論文を産業能率大学スポーツマネジメント研究所が責任をもって編集しました。全国のバレーボール強豪校に在籍する1000名を超える現役女子部員の生の声をまとめた前例のないレポートに仕上がっています。ご多忙の中、回収と郵送にご尽力いただいた監督や顧問の先生、関係者のご尽力の賜物です。厚く御礼申し上げます。

本年はビーチバレーがオリンピックの正式種目に採用された1996年のアトランタ大会から数えて20年目の節目の年に当たります。2012年のロンドン五輪において32年ぶりに銅メダルを獲得したインドア女子の余勢を駆って、ビーチバレーも今年のリオデジャネイロ大会で弾みを付け、2020年の東京大会でのメダル獲得を実現すべく、強化に全力を挙げております。

今回の調査によって、ビーチバレー普及のための課題を改めて浮き彫りにすることができました。女性からの抵抗が強い「日焼け」や「水着」への対策として、協会ではユニフォーム基準の緩和や屋根付きコートの開設などを進めていますが、その浸透が十分とはいえない点や、本来安全なはずの「砂場」が危険だと誤解されている点など、その解消に向けた対策を急ぎ講じていきたいと考えています。

何より急務なのは人材の発掘と育成です。ビーチバレーに高い適性を持った選手を大学入学時から専門的に鍛え上げることができれば、東京オリンピック出場やメダル獲得も決して夢ではありません。先生方におかれましては是非「オールジャパン」の精神で、ビーチバレーへのご支援も何卒よろしくお願いいたします。

公益財団法人 日本バレーボール協会 ビーチバレーボール事業本部 強化部長
産業能率大学 女子ビーチバレー部 ヘッドコーチ
同 スポーツマネジメント研究所 客員研究員
川合 度

部員の皆さんへ

バレーボール部に所属する女子高校生の皆さん、この度は練習の貴重な時間を割いてアンケートに答えていただき、ありがとうございました。皆さんのご回答のおかげで、文部科学省やJOC(日本オリンピック委員会)、日本体育協会が後援する徳川スポーツ財団主催のSport Policy for Japanという大会で「ビーチ再生」という政策提言を行い、優秀賞をいただくことができました。

予想を遥かに上回る1,095名もの皆さんから回答を寄せていただき感激でした。卒業論文の一環としてデータ分析に取り組んだことから、ご協力いただいた多くの生徒さんが卒業した後のご連絡になってしまったことが残念ですが、この報告書の内容が、後輩の皆さんにとってもバレーボールに打ち込む同世代の現状を知り、また、ビーチバレーに関心を持ってくれる良いきっかけになれば幸いです。

部活の練習が辛くて辞めたいと思うこともあるかもしれませんが、しかし、苦しい中でこそ人は成長でき、困難を克服してこそ達成感は得られます。高校卒業後、競技を続ける人もそうでない人も、高校バレー部での経験は必ず活きる時が来ます。今を大切に、これからも頑張ってください。

産業能率大学 情報マネジメント学部4年
清水 友菜

目 次

1. 単純集計とその考察		p. 1
Q1 学年	Q2 身長	Q3 バレーボール歴
Q4 ポジション	Q5 得意なプレー	
Q6 ビーチバレー経験		
Q7 ビーチバレーをしてみたの感想	Q8 ビーチバレーが楽しかった理由	
Q9 今後ビーチバレーをしたいか	Q10 ビーチバレーへの本気度	
Q11 ビーチバレーへの抵抗感や不安要素		
Q12 近隣のビーチバレー環境の有無	Q13 Q12の具体内容	
Q14 高校卒業後の希望進路	Q15 高校卒業後のバレーボール継続意欲	
2. 高校女子バレーの現状分析		p. 12
2-1 身長・ポジション・得意なプレーの関連性分析		
2-2 キャリアが必要とされるプレーとは		
2-3 希望進路と競技継続意欲から見えるもの		
3. ビーチバレーの課題と可能性		p. 15
3-1 高身長選手はドインドア専念の傾向		
3-2 対照的なセンター層とリベロ層		
3-3 ビーチバレーの普及に向けて		
資料		p. 19
資料1 アンケート送付先高校一覧		
資料2 調査票（アンケート用紙）		

1. 単純集計とその考察

本調査は2014年8月に全国の強豪校202校(資料1)に郵送で依頼し、同年11月までに57校から回答を得た(回収率28.2%)。回答学生の総数は1,095名である。本章では、アンケート用紙(資料2)の順に全15問の単純集計結果をグラフにまとめ、考察を加える。

Q1 学年



回答者の学年は上級生ほど回答数が減っている。減少の理由としては、高1から高2にかけては途中退部が考えられる。高2から高3にかけては途中退部に加え、引退後という可能性も考えられる。

高3生の回答者は少ないが、調査時期が8~11月であることを考えれば相当の回答数である。今回の調査は強豪校を対象にただけに、まだ多くの高3生が現役として活動を続けており、本調査に協力してくれたようだ。

Q2 身長

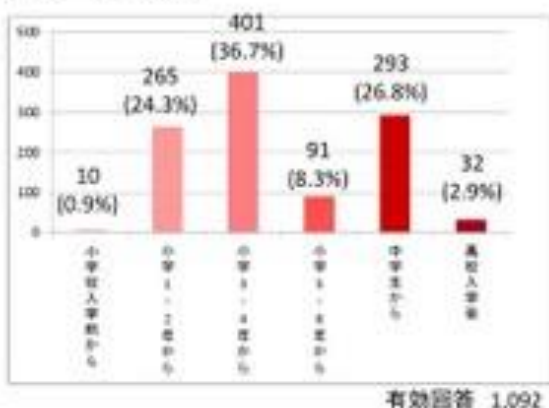


身長レンジ	本調査 (N=1,086)	全国平均 (理論値)
170cm以上	18.6%	1.3%
165~169cm	20.8%	9.5%
160~164cm	33.7%	27.3%
155~159cm	18.5%	35.5%
150cm未満	8.4%	26.2%
平均身長	163.0cm	157.9cm
標準偏差	6.33cm	5.38cm

回答者の身長は、全国平均と比較して5cm以上も高い。理論上165cm以上の女子は全国に11%しかいないはずだが、本調査では約40%、170cm以上も18.6%にのぼる。したがって高校女子バレーの強豪校選手は身長が有意に高いといえる。

また「160cm」「170cm」に回答が集中し、それよりも1cm低い159cmや169cmは該当者が少ないことから、身長を高く見せた方が有利という心情が働いているものと解釈できる。

Q3 バレーボール歴



バレーボールを始めた時期は、両脇（小学校入学前・高校入学後）は例外的であるためこれを除いて考えると、「小学1～4年」（計61.0%）と「中学生から」（26.8%）とに二極化している。

「中学生から」が多いのは、多くの中学校において部活動参加が必須となっている影響も大きいと考えられる。他方小学生において低学年からの参加が多いのは、ジュニアの大会が本格化する高学年の前から入会する児童が多いためと考えられる。

Q4 ポジション



現在のポジションについては「スパイカー」が圧倒的に多く45.3%を占めるが、厳密にはこの中には「レフト」と「ライト」が含まれる。

スパイカーに次いで多いポジションは「リベロ」の22.6%、3位が17.3%の「センター」、最も比率が少なかったのが「セッター」の14.9%という結果であった。

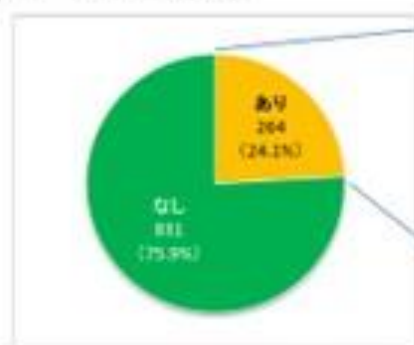
Q5 得意なプレー



一番得意なプレーについての回答は、多数派の3プレーと少数派の2プレーに大別される。

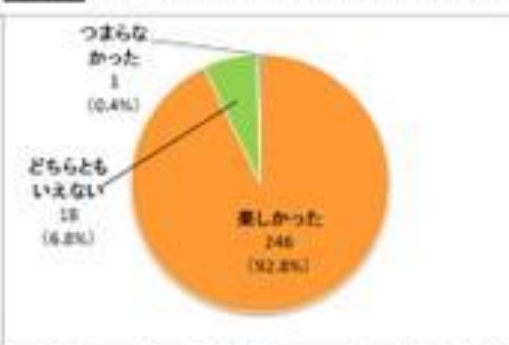
多数派は「レシーブ」「サーブ」「スパイク」の3つであり、比率は25～30%であった。他方、少数派は「トス」と「ブロック」であり、いずれも10%未満であった。

Q6 ビーチバレー経験



有効回答 1,095

Q7 ビーチバレーをしてみたの感想

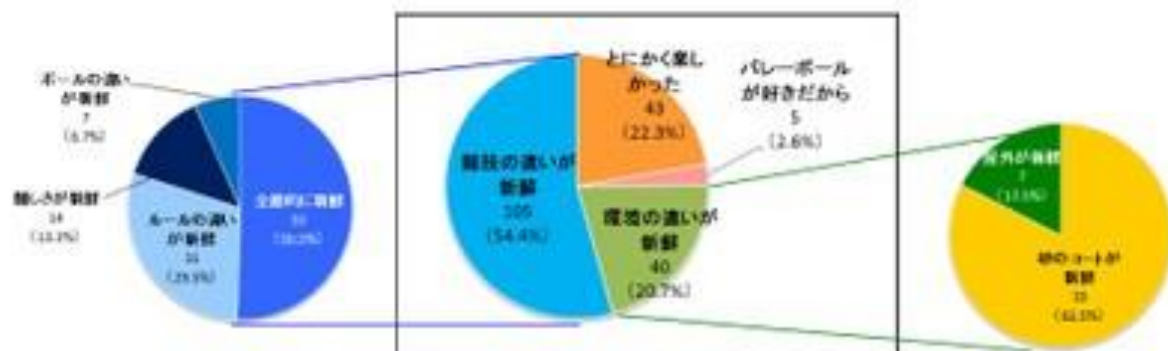


Q6で「ビーチバレー経験あり」の264名に追加で質問

ここからはビーチバレーに関する質問である。ビーチバレーをやったことのある生徒は、この調査に参加してくれたインドア強豪校の女子部員の4分の1にも満たず、ビーチバレーがまだ十分に普及していない状況が改めて浮き彫りとなった。

その一方で、やったことのある生徒に迫ってその感想を尋ねたところ(Q7)、ほとんどの生徒(92.8%)が「楽しかった」と回答していた。これは普及に向けた明るい材料である。なぜなら、経験してもらえさえすれば、好印象を持ってもらえる可能性が高いためだ。

Q8 ビーチバレーが楽しかった理由



有効回答 193

前問Q7で「ビーチバレーをやって楽しかった」と答えた生徒に、さらにその理由について尋ねた。その結果を目視で分類したところ、特別な理由ではなく「とにかく楽しかった」(22.3%)や「バレーボール自体が好きだから(ビーチバレーも好き)」(2.6%)という回答も見られたが【(普段やっている)インドアとの違いが新鮮】と回答した生徒の多さが目を引いた。

次ページに続く

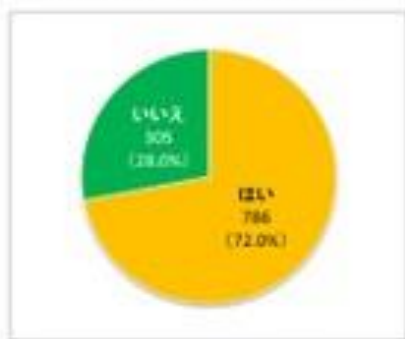
その違いは大きく「環境」と「競技」とに分けられる。インドアのバレーボールとアウトドアのビーチバレー間の「環境」の違いはある程度予想していたものの、「競技」への着目は意外であった。

以下に自由記述の抜粋を載せた。「やりにくさが楽しい」といった自由記述に代表されるように、今回の回答者は競技者としてハイレベルな選手が多かったため、競技としての難易度の高さがかえって彼女たちのアスリートとしての探究心をくすぐったのではないかと想像される。

フットサルやビーチサッカーのテクニックがサッカーに活かせることは広く知られている。ビーチバレーも同様に、それによって体得できるスキルがインドアのバレーボール上達に通じることが認知されれば、競技の拡大の一助になるに違いない。

カテゴリー		Q8:ビーチバレーが楽しかった理由の自由記述(抜粋)
楽しかった とよく 感じた		ビーチバレーは環境が良かったので楽しかったです！
		友達とワイワイはしゃぎながらやったよ
		マドンナカップにはじめて出て、めちゃくちゃ楽しかった！
		もりあがる
		すごく楽しくて、また機会があればやってみたいと思っています。
環境の 違いが 新鮮	屋外が新鮮	それがの中でみんなでプレーするのが楽しかったです。
		風などを利用したプレーも楽しかったです。
		風向きを利用したりして、インドアとは違う楽しさを見つけたからです。
	砂のコートが新鮮	開放的だったから。
		はだしでできるし、海が見えるから。
競技の 違いが 新鮮	全般的に新鮮	砂場に足をたづねて思うように動けなかったけど楽しかった。
		ボールをとりはねるとびこらして楽しかった。
		砂がはねて走りずらかったが、すごく楽しかったからです。
	ルール の違いが 新鮮	なれない砂で足をたづねたが、その中でうまくいったプレーが多かったから楽しかった。
		いつも自分がやっているバレーとは一味違ったから。
		普通のバレーボールとルールが違う部分があるので、ラリーが長く続くことが多くて楽しかった。
		いつもは室内で足場もよく、走り回れますが、ビーチバレーは外で、しかも足場が悪く砂なのでいつもとは違ったプレーができて楽しかったです。
		2人でコートを守るので、絆が生まれるから。
		インドアのバレーとは違い、2人でボールをつなげたり、相手の空いている所を突けることが出来る所。
		ペアとのコミュニケーションが重要で、決まった時の喜びが伝わる。
		小さくてもレシーブでつながり、ラリーをする事が出来る。
		コートに入人数が4人の中で、考えてプレーをしていくところ。
		2人だった時、ルールが違って難しい部分もあったけど、足場が悪かったり、風があったり、相手のバレーでは味わえない気分もあったし、「ペア」っていうところが新鮮だった。
		6人制のバレーより人数が少なく全てのプレーをやる事が出来るから。
		2人でバレーをやるというのはスパイクレシーブもミスでやるので普通のインドアのバレーではできない事が出来るから。
		室内のバレーとは人数が違って動く距離が違ってたから楽しかった。
	楽しさが 新鮮	室内のバレーとは違い、楽しかったです。やりがいがあったので楽しかったです。
		コートの中で2人しか入れず難しいけれどそれ以上に相手との駆け引きをするのがとても楽しかったです。
		インドアのバレーとは違って難しいところはあるけど、そこで点を決められるときに楽しさを感じた。
ボール の違いが 新鮮		インドアとは違い、2人でやり合えないって、足場が悪いという部分で大変だと思えます。でも、その分が勝ると嬉しいという感情になります。
		インドアと違ってすごくむずかしい所がまたおもしろかった。
		普通のボールと違う部分で、いつもと違うので楽しかった。
		バレーボールとちがってボールがどこに行ってもつかないところがおもしろい。

Q9 今後ビーチバレーをしたいか



有効回答 1,091

今後ビーチバレーをしたいかという質問に関しては、Q6で尋ねたビーチバレー経験とはYes/Noの値がほぼ反転している。

すなわち、ビーチバレーは経験者こそ少ないが(24.1%)、インドアのバレーボール選手にとっても、72.0%がやりたい気持ちを潜在的に持っている競技であるといえ、その環境をいかに提供できるかが普及のカギといえるだろう。

Q10 ビーチバレーへの本気度



有効回答 783 (複数回答を除く)

しかしながら、前問(Q9)で「ビーチバレーをやってみよう」と回答した生徒に「どの程度本気でやってみようか」を尋ねたところ、左図の結果となった。

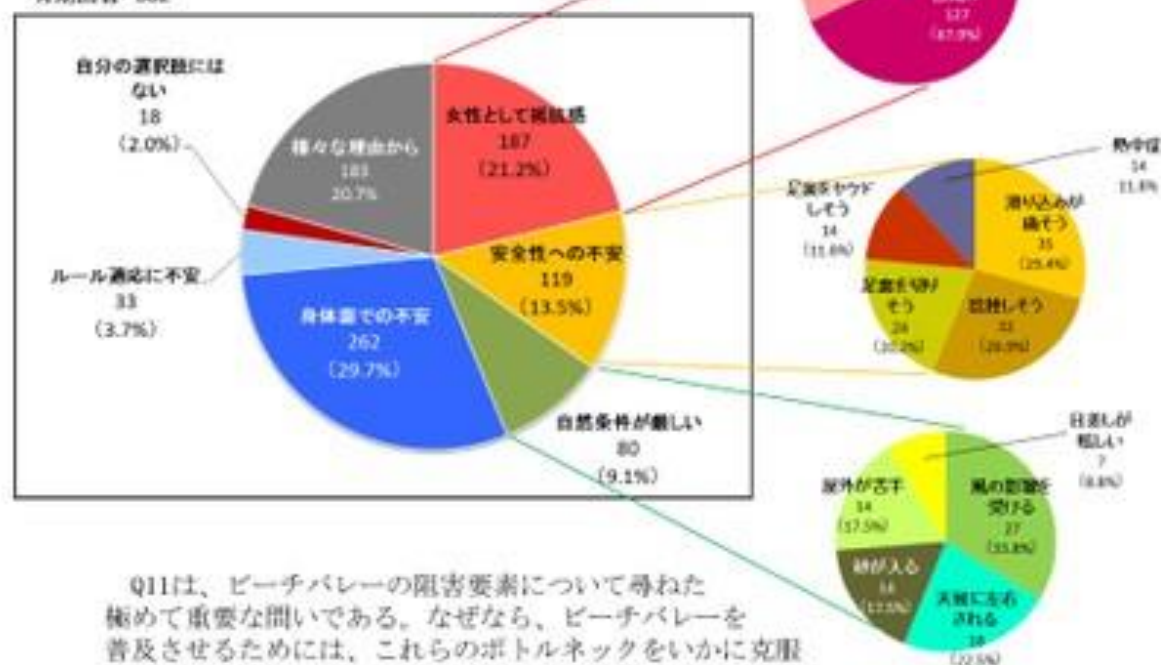
「五輪やプロへ部活で全国大会」を合わせても5%に満たず、鍛錬のため8.0%止まりであり、4分の3以上(76.2%)の生徒が「趣味」程度と回答していた。

つまり、競技として本腰を入れるのはあくまでインドアのバレーボールであり、「ビーチバレーはレジャーに過ぎない」と捉えられている現実を突き付けられた。



Q11 ビーチバレーへの抵抗感や不安要素

有効回答 882



Q11は、ビーチバレーの阻害要素について尋ねた極めて重要な問いである。なぜなら、ビーチバレーを普及させるためには、これらのボトルネックをいかに克服するかが課題となるからだ。Q8同様に目視で分類およびグラフ化し、その結果を解釈するとともに、代表的な自由記述も抜粋して掲載した。

「様々な理由から」を除くと、2つの大きなカテゴリー群に自由回答は分類される。それらは、以前から女子ビーチバレーにとって問題として認識されてきた【女性としての抵抗感】【安全性への不安】【自然条件が厳しい】というカテゴリー群と、今回のハイレベルなバレーボール競技者特有の回答といえる【身体面での不安】【ルール適用に不安】【自分の選択肢にはない】のカテゴリー群の2つである。

本ページのグラフは前者の内部を細区分したものである。前者内最大のカテゴリーである【女性としての抵抗感】(21.2%)の内部を見ると、その構成要素は「日焼け」「水着」「砂で汚れる」の順となる。

次点である【安全性への不安】(13.5%)の内部を紐解くと「潜り込みが痛そう」「捻挫しそう」「足裏を切りそう」「足裏をヤケドしそう」「熱中症」などへの恐怖を読み取ることができる。

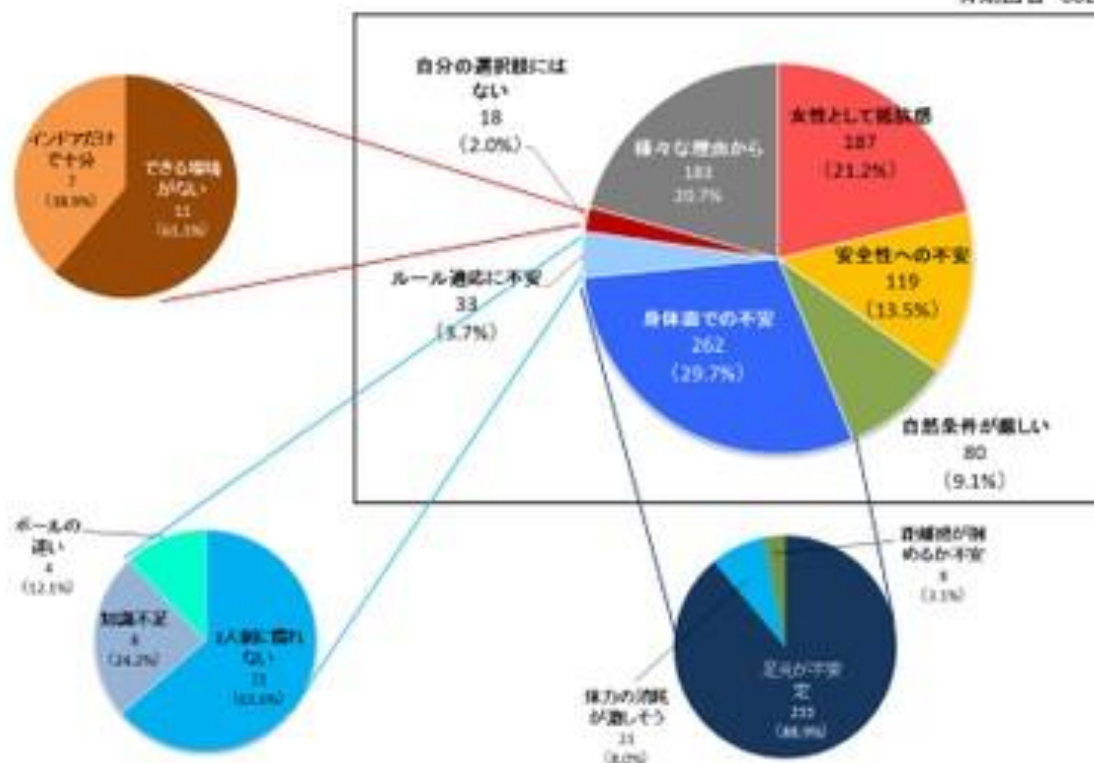
前者の最後は【自然条件が厳しい】(9.1%)である。同様に内包するカテゴリーとしては「風の影響を受ける」「天候に左右される」「砂が(目や口、衣服の中に)入る」「屋外が苦手」「日差しが眩しい」が挙げられていた。

次ページ・次々ページに続く

カテゴリー		Q11:ビーチバレーへの抵抗感や不安要素(抜粋1)
女性としての抵抗感	目隠し	目隠しをして視界が狭くなる事に抵抗あり。
		目隠しで暗くなるのが少し怖い。
		直射日光に長時間あたること
		ビーチボールは、重しそうですが、女子ならではのなやみとしては目に隠れるからという理由があると思います。
		外なので暑熱が気になります。
		目隠しで呼吸しただけにならそうです。
	水着	ビキニになるのがセグ！
		試合などになると水着でやらなくてはならないこと
		人に見られる。スタイルが良くないからそれが一番不安です。
		生理の時こまる
		水着でプレーすると気がかり、恥ずかしいと思ってプレーに集中できない。
		くびれがない...
	砂で汚れる	砂まみれになるのが...
		砂がパンツに入る。
		砂が肌につく事に抵抗を感じます。
		汗をかいたので砂がついてイライラすること。
安全性への不安	海り込みが怖い	波が打ち込んできたとき、砂が怖い。
		サポーター無しでコートをはみで守るのは気がしる。
		泳ぎが得意で、スライディングとかしたら怖いけど不安
		外でやることでインディアのビーチボールに比べ、フライングなど、転ぶプレーが不安。
	接触しそう	足指が怪しくて見くびかたがわからずして怖い。
		下が砂なので、足をひねりやすくなったりなどが怖く可能性がある。
		足元が不安定なため、転倒などの心配がある。
	足裏を切りそう	はだしでの運動は足に負担がかかるので、よろこびない。
		なにがかわらないものがおちていて怖い。
		ガラスなどをふんでケガしないけど...
	足裏をヤケドしそう	砂の上だと、一瞬が落ちているのが怖い...
		足のうらは足が熱い感じがするから怖い。
		足のうらが太ももになりそう。
	熱中症	砂が熱くて「アチッ」となること
		熱中症や脱水症状にならないように...
自然条件が怖い	風の影響を受ける	直射日光で熱い。
		外でやるので風の被害などでむずかしくなりそう。
		風などが強いためボールが思ったとおりに上がらない。
		ボールが風に左右されるところ
	天候に左右される	コントロールするのが大変
		天候によって活動のペースが左右されること。
		天候に左右される競技だから中止がある。
	砂が入る	外の競技だから天候が自分のコンディションを左右しそう
		雨や嵐などの天候によってできる日とできない日がある。
		飛び込む時に砂が目に入ること。
	腰が苦しい	砂が目や口、鼻に入りそうで怖い。
		コンタクトを繰り返しているから目に砂が入ること
		ムシがつくこと。
	日差しが強い	熱い。
		太陽がまぶしくてボールが見えないのでは...
		日差しで熱くて足にないボールを無理やり見るため、目ははしょってしまいたい。

前者のカテゴリー群はかねてより指摘されてきたネガティブ要因とはいえ、行き過ぎた先入観の場合には、その誤解を解くための広報活動が必要だ。例えば【安全性への不安】の「滑り込みが痛そう」に関しては、管理が行き届いたビーチバレーコートであればインドアよりも安心して滑り込むことができる。また「足裏ヤケド」に関しては、サンドソックスを着用すればその心配はまずない等である。

有効回答 882



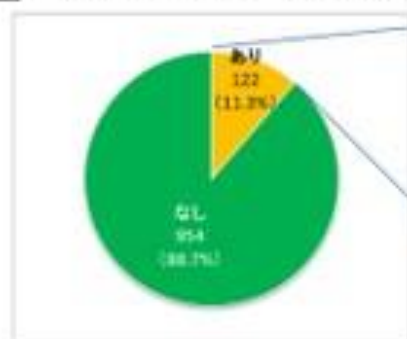
つづいて後者の、今回のハイレベルな競技者特有のカテゴリーへと目を転じよう。本ページのグラフはその内部をさらに分類したものである。後者を代表するカテゴリーは【身体面での不安】(29.7%)であり、その構成要素はほとんどが「足元が不安定」に集中していた。

これに続くのは【ルール適応に不安】(3.7%)であり、この内部は「2人制に慣れない」「知識不足」「ボールの違い」に分かれた。上記はいずれもインドアとしては高いパフォーマンスを誇る彼女たちが、ビーチバレーでは同様のプレーができないかもしれないことへ不安感の現れだと推察できる。

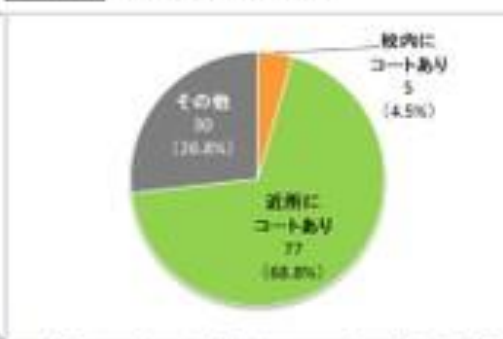
最後のカテゴリーは【自分の選択肢にはない】(2.0%)である。「インドアだけで十分」はいかにもバレーボールの成功者らしい意見だもいえるが、インドアに集中したい、あるいはインドアの練習だけで余裕がないとも解釈できる。なお「できる環境がない」という指摘については、その内実を次のQ12において探っている。

次ページに続く

カテゴリ		Q11:ビーチバレーへの抵抗感や不安要素 (抜粋2)
身体面での不安	足元が不安	走ったり、飛び込んだりする際に、シューズの地面をけるの心配 今までちゃんとジャンプできたのが、砂浜の上では出来るか不安 砂の上だからジャンプの高さがでなからたりすると思う、...
		砂浜は思うように走れない、自分はビーチバレーやれる程技術がないと感じる 砂浜の上での動きになるので自由に動ける範囲がせばまる 着地が床に比べて、安定しなさそう 砂の上なので安定感がないので、うまく動けるか不安 砂の上で動きやすい、陸地に比べておまわり踏み込めないこと 砂の上なので動きやすい、守備範囲が広いということ 砂の中でやるので足元が不安で、もうふんばりができず動きにのり 地面が砂なので、ふんばりをするプレーが難しそうです。 足元が砂のため、足を踏ってしまわないのが、 砂に足を踏まれて上手に足が動かなくなるそうなど スパイクを打つ際やレシーブを打つ際のふんばりができないと思う 足場が悪いので、カットする時などふんばれるの心配です。 ビーチバレーは砂だから、走ったり、飛び込んだり、不安と抵抗がある
		インドアのバレーに比べて着方に負担がなさそう 体力がどうしても必要とされそう 室内よりも動きにのめりやすそう 砂浜の上でもやるから、体力が奪われる 砂の上で動き回ると体力の消耗が激しい 動く量が多いのできつそう 高さの感覚がつかなくなる、 壁や天井がないこと ボールとの距離感や感覚が分からなくなりそう、
	体力の消耗が激しそう	人数が少ないので大変そう、コミュニケーションをとらなければいけない ビーチバレーは2人で競技するプレーなのでボールを運ぶとして、いそうだと感じてしまう。 2人でプレーするのでコートが広い。 コートの中には人のみなので、ミスもよくやばい、とバタバタになってしまうこと。 2人でやるので守備が大変そう
		バレーボールと、ビーチバレーのルールが違うので、ルールを覚えることです。 ルールが難しい あはれいめえい、声が多い ボールの動きが速いため不安である ボールの動き
		練習場の確保 ビーチバレーができる環境が身近にない、のでビーチバレーについてあまり知らない 日常生活をしていてビーチバレーが出来る環境がない所です。 ビーチのある所まで行くのが大変 砂の上と練習場では感覚がちがう バレーボールの方が難しい インドアを専門でやってきて、今もインドアの環境でやっていて、アウトドアをやっている、 インドアでやる慣れしている。
	距離感がつかないか不安	自分の選民にはない
		2人制に慣れない
		知識不足
		ボールの速い
		自分の選民にはない
自分の選民にはない	できる環境がない	インドアだけで十分
		インドアだけで十分

Q12 近隣のビーチバレー環境の有無

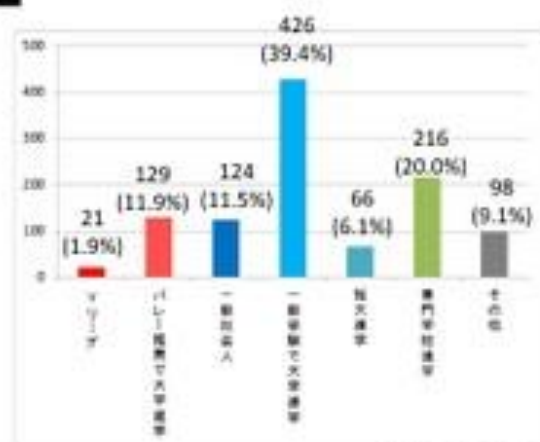
有効回答 1,076

Q13 Q12の具体内容

Q12で「ビーチバレー環境あり」の112名に追加で質問

近隣のビーチバレー環境の有無に関しては、Q6(ビーチバレー経験の有無)以上に「あり」の該当者が少なかった(Q6では24.1%、Q12では11.3%)。このことから、経験ありの生徒の半分以上が旅行先やマドンナカップ(ビーチバレージャパン女子ジュニア選手権大会)といった特殊な状況下でビーチバレーを経験したのだと考えられ、普段からビーチバレーに馴染んでいるとは言い難い現状が読み取れた。

続くQ13では「あり」の中身を探ったが、「校内にコートあり」は5%にも満たなかった。なお「その他」には「夏場だけ近くの海水浴場で」などが含まれていた。

Q14 高校卒業後の希望進路

有効回答 1,080

最後の2問Q14・Q15は、再びビーチバレーとは直接関係のない質問に戻る。Q14では高校卒業後の希望進路を尋ねた。左図は【本格的な競技継続】を赤系、【就職・進学】を青系に色分けしてグラフ化したものである。

赤系の【本格的な競技継続】において「Vリーグ」と答えた生徒は2%弱に留まった。この質問ではあくまで希望を聞いたに過ぎないが、かなり現実的な回答が寄せられたと判断できる。

「バレー進学で大学進学」も進学の一つではあるが、競技継続が確定的なため赤系に該当させた。その比率は11.9%であった。

他方青系の【就職・進学】では「一般社会人」にも増して「一般受験で大学進学」が多かった。当然この中には進学後に体育会バレーボール部入部を考えている生徒も含まれる。「専門学校進学」も「一般社会人」よりも多く、女子らしい特徴が現れていた反面、「短大進学」は6.1%に留まり、現代を反映していた。

上記以外の回答としての【その他】は「未定」がほとんどであったが、「系列大学への付属推薦」が8件、「指定校推薦」が3件、「留学」が2件含まれていたことを付記しておきたい。

Q15 高校卒業後のバレーボール継続意欲



アンケート最後の質問では、高校卒業後もバレーボールを継続するかについて尋ねた。全国の強豪校を対象とした今回の調査の特性から、「競技として続けたい」が3割強にのぼり、「趣味程度には続けたい」と合わせると82.7%もの生徒が卒業後もバレーボールを継続したいと答えていた。

ただし、13.2%の生徒が「続けるつもりはない」と回答しているのも事実である。前問Q12(進路希望)とも共通するが、高校1年生の段階で高校卒業後について回答することは難しく、その結果が「未定」の多さに現れていたといえよう。

上記から浮かび上がった疑問点(バレーボールを続けない背景)や、調査上の課題(学年ごとに希望進路はどう異なるのか)等について考察を深めるべく、2つの質問間のクロス集計も行った。続く第2章では、それらの集計および分析結果について述べる。

2. 高校女子バレーの現状分析

本章では、Q1～Q5に当たる「学年」「身長」「バレーボール歴」「ポジション」「得意なプレー」、およびQ14・Q15に該当する高校卒業後の「進路」「バレーボール継続意欲」に注目して、質問間のクロス集計を行い、高校女子バレーボール部員の現状を分析する。

2-1 身長・ポジション・得意なプレーの関連性分析

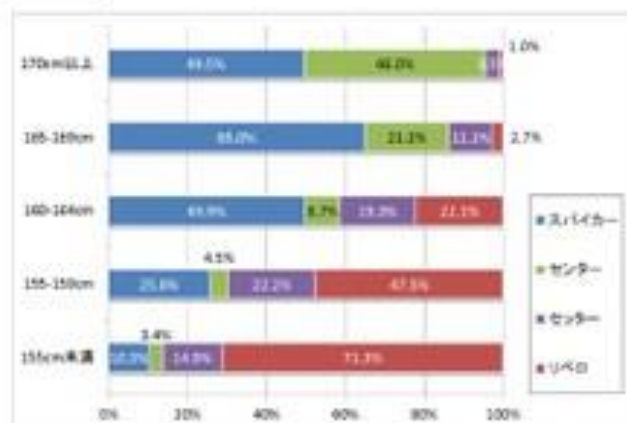


図2-1-1. 身長レンジ別のポジション

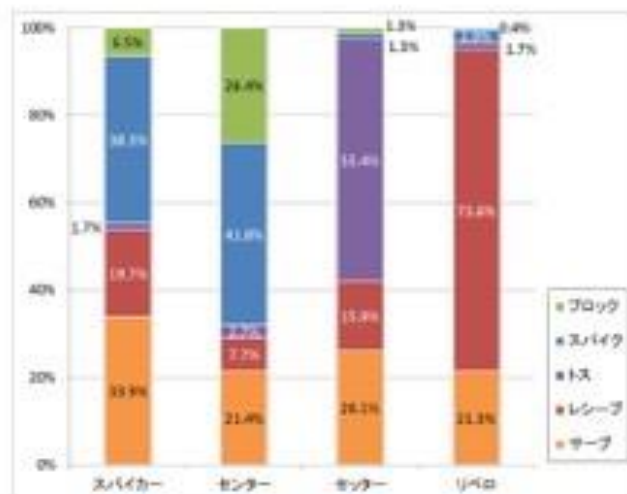


図2-1-2. ポジション別の得意なプレー

第1章のQ2において、バレーボールは「身長」というファクターが非常に重要だと考察したが、その傾向はクロス集計を行うことで、より鮮明に現れた。

上図は身長の幅ごとに、そのレンジに占める4つのポジションの比率を示したものである。この結果から、バレーボールのポジションは身長の高さによってほぼ決定されている状況が浮き彫りになる。

具体的には、低身長の場合は「リベロ」が主流であり、155cm未満の場合には7割強がリベロとなっていた。「スパイカー」は160cmを超えていないと難しいポジションであり、「センター」に至っては、170cm以上あることが要件と考えられる。

そして下図は、各ポジションごとの得意なプレーの結果を示したものである。ポジション間の差がほとんどないのは「サーブ」のみであり、他はポジションと得意なプレーとが密に関連していた。

具体的には、「スパイク」はスパイカーとセンターに、「ブロック」はセンターに、「トス」はセッターに、「レシーブ」はリベロへの集中が激しかった。

以上から、ポジションそして得意なプレーも、すべての根底は「身長」によって規定されるといっても過言ではない。

2-2 キャリアが必要とされるプレーとは

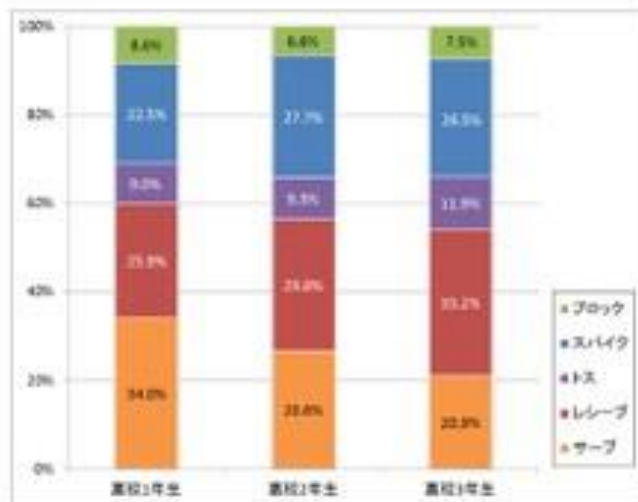


図2-2-1. 学年別の得意なプレー



図2-2-2. バレー歴別の得意なプレー

前節の「得意なプレー」だが、身長やポジション以外の影響は考えられないだろうか。「学年」によるその差異の検証を試みた結果が本ページの上の図である。

この図から一定の傾向を読み取ることができる。それは、学年が上がるにつれて得意なプレーに占める「サーブ」の率が減り、逆に「レシーブ」の率が増えているという点である。

サーブはラリーの起点であり反応ではない。対照的にレシーブは、相手が放ったボールへの反応以外の何物でもない。このことから上図の結果は、学年が上がるにつれてボールへの対応が上手くなることを示していると考えられる。これは、「レシーブが上手くなるためにはキャリアが必要」とも言い換えることができる。

上の仮説が確かだと述べるには、学年の比較だけでは弱い。そのため、まさにキャリアに該当する「バレー歴」ごとに比較を行った結果が下図である。

※ 第1章Q3の集計結果より「小学校入学前から」「小学5・6年から」「高校入学後」は例外的なため、代表的な3つのバレー歴に限定して比較した。

この結果から「レシーブが上手くなるためにはキャリアが必要」とする上記仮説は実証された。なぜなら、サーブを得意とするのはキャリアの浅い「中学から」に多く、逆にレシーブを得意とする層は「小学校から」とりわけ「小学1・2年から」で高い比率を占めたからである。

前節2-1において、得意なプレーはポジションに左右され、そのポジションは身長によって規定されている現実を明らかにした。本2-2では、前節では得られなかった別の知見が得られたことになる。

それは「サーブ」と「レシーブ」との対照性であり、相手の行動やボールの軌道を読み取らなければならないレシーブほど経験を必要とし、バレー経験が長い選手ほど得意な傾向があるという点である。

2-3 希望進路と競技継続意欲から見えるもの



図2-3-1. 学年別の希望進路



図2-3-2. 身長別のバレーボール継続意欲

第2章の最後に注目するのは彼女たちの将来、すなわちQ14(希望進路)およびQ15(バレーボール継続意欲)である。

まず第1章において残った問題「高校1年生の段階で高校卒業後について回答することは難しい」の点について検証した結果が図2-3-1になる。

「その他」には「未定」も含まれるため、その率は予想の通り低学年ほど高くなっている。逆に増えているのが「短大進学」と「専門学校進学」であり、この結果にも首肯できよう。

3年次に顕著な増減が見られるのが「バレー推薦で大学進学」と「一般受験で大学進学」である。この結果は高3時代の活躍によって、そのどちらかに確定したと考えられなくもない。だが、このアンケートの調査時期(8~11月)も踏まえると、引退あるいは受験勉強に集中するために退部した生徒は回答者に含まれないため、自明な結果と言えなくもない。

第2章の最後のグラフは図2-3-2になる。このグラフは本章の冒頭で明らかにした「身長」の重要性が、その後のバレーボール継続にまで影響を与えているかを調べたものである。 ※ 未定を除く。

その結果、かなり高い正の相関が確かめられた。155cm以上では、身長が高くなればなるほど「競技として続けたい」率が高くなっていたからである。裏を返せば、高身長でない限り、プロはもとよりスポーツ推薦で大学に入学するのも難しいという現実を彼女たちは知っているのだろう。

身長と継続意欲との相関関係において、唯一の例外となったのは155cm未満の層であった。前述の通り、この層の生徒のポジションはほぼ「リベロ」だと考えられる。この結果は「競技として続けたい」該当者の中に、身長の低さをカバーするに足るレシーブ技術を持った生徒の存在を想像させる。

3. ビーチバレーの課題と可能性

本文の最後となる本章では、ビーチバレーに特化した質問であるQ6～Q13を軸に、前章においてその重要性が再認識された「身長」「ポジション」「得意なプレー」などの基本属性とのクロス集計を行い、ビーチバレーが抱える課題と可能性を明らかにし、将来展望を図る。

3-1 高身長選手ほどインドア専念の傾向

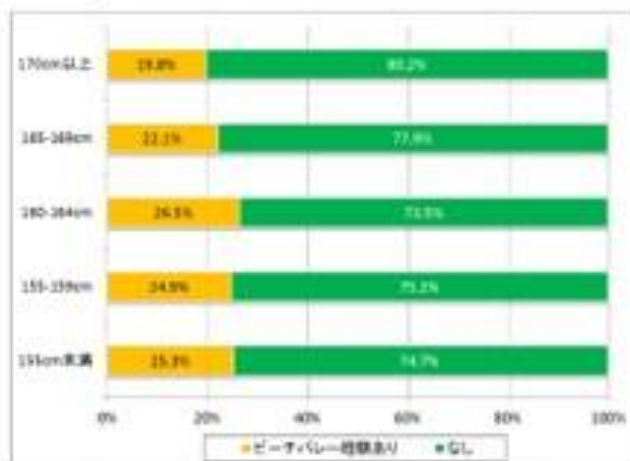


図3-1-1. 身長レンジ別ビーチバレー経験

第1章および第2章において、女子高校バレーボール選手にとって「身長」が極めて重要なファクターであり、それがポジション、得意なプレー、さらにはその後の競技継続にまで影響を及ぼしている現状を明らかにした。ビーチバレーの課題と可能性を探る本章においても、第一に「身長」に着目してみたい。

上図は身長レンジごとの「ビーチバレー経験」について示したグラフである。第1章のQ7で既述の通り、全体でのビーチバレー未経験者の率は75.9%であったが、170cm以上の層ではそれよりも5%近く高く、165cm以上の層でも2%高い。このことから、高身長の選手ほどビーチバレーには目もくれず、インドアに専念しているのではないかという仮説が立てられる。

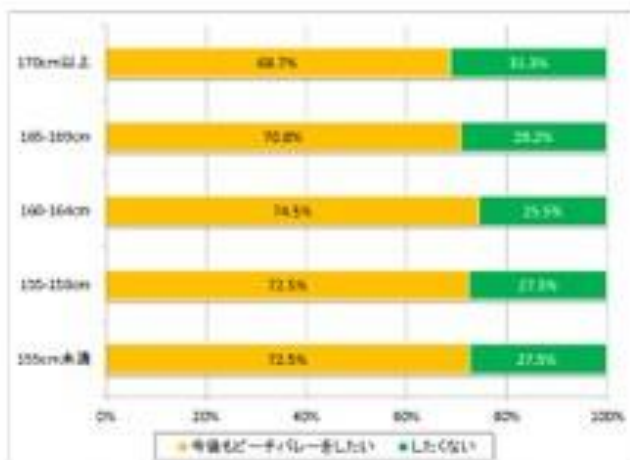


図3-1-2. 身長レンジ別ビーチバレー意欲

下図は上図の「ビーチバレー経験者」に限定し、もう一步踏み込んで「今後ビーチバレーをしたいか」について尋ねた結果を身長レンジ別に示したものである。この結果より、上記仮説の確かさがより強固となる。

なぜなら、ビーチバレーを経験した生徒の反応を見ても、165cm以上の層では「今後またやりたいとは思わない」との回答が平均値(28.0%)を上回り、170cm以上の層で最大になっていたからである。

ただし、低身長者ほど意欲が高いかといえばそうでもなく、一番意欲が高い層は160-164cmの層であった点は補足しておきたい。

3-2 対照的なセンター層とリベロ層



図3-2-1. ポジション別のバレーボール継続意欲



図3-2-2. ポジション別のビーチバレー経験

続いて「ポジション」に着目する。上図はポジション別にバレーボールの継続意欲を集計したグラフ、下図は同じくポジション別にビーチバレー経験を集計したグラフである。

上図ではまず「未定」率に注目してほしい。ここからわかるのは、迷いがあるかないかの違いであり、前述のように「身長」の影響が否定できない。未定率が相対的に低いのは高身長者が多い「スパイカー」と「センター」であり、逆に未定率が高いのは、相対的に低身長者の多い「セッター」と「リベロ」である。

だが、ともに未定率が低かったスパイカーとセンターとの間にも大きな違いが見られた。それは「続けるつもりはない」の率だ。スパイカーでのその率は9.5%に留まるのに対し、センターでは全4ポジション中最大の12.3%にもなっている。この結果は何を意味するのだろうか。

これまでの分析結果も踏まえて考えると以下のような仮説が成り立つ。それは、センターとリベロの対照性である。

「センター」は身長においては最も恵まれた層であるが、背が高いことを理由にそのポジションを不本意に割り当てられた選手もいるに違いない。彼女たちは戦略上、固（おとり）なども強要されるため、スパイカーのような爽快感を得にくく欲求不満が貯まりやすい。

逆に「リベロ」は平均身長は最も低いものの、巧みな技術を武器にバレーボールを楽しめている選手が多いと考えられる。その証拠に「続けるつもりはない」の率が最も低いポジションとなっている。

下図の結果をも加味するならば、バレーボールを楽しめている層ほど、ビーチバレーの経験率も高いということもできる。第1章のQ6・Q7より、ビーチバレー経験者では9割以上がビーチバレーについて肯定的な感想を持っていた。そして前節から、高身長層にはビーチバレーに対して「食わず嫌い」的な傾向があることもわかっている。もしセンター層が不本意なポジションが理由でバレーボールを十分に楽しめていないとしたならば、ビーチバレー触れるという経験を通じて、バレーボール本来の楽しさを再確認できるという可能性も考えられる。

3-3 ビーチバレーの普及に向けて



図3-3-1. 得意なプレー別希望進路



図3-3-2. ビーチバレーの感想別ビーチバレー意欲

本文最後すなわち結論部となる本節では、これまでの議論を整理し、ビーチバレーの普及に向けて必要な施策について述べ、本報告書を締めくくりたい。

前節において新しい可能性が得られた。それは「センター」層の中には、身長に恵まれながらもバレー継続意欲が低い選手が散見されるという意外性であった。まずはその事実を強化するデータを提示するところから始める。

左の図3-3-1は、得意なプレー別に希望進路を示したグラフである。競技継続に直結する「Vリーグ」および「バレー推薦で大学進学」に該当する率は得意なプレーが「スパイク」の層で際立って高い。しかし「ブロック」層は他のポジションと目立った違いがないレベルに留まっている。逆に「ブロック」が得意な層において目立つのは「一般受験で大学進学」の高さである。

この結果は、プロや大学のスカウトたちの目には、ゲームの華であるスパイクの印象が強く、ブロックは印象に残りづらいことを示しているとも解釈できる。地道に努力を重ねながら十分に評価をされないセンター層に照準を絞り、ビーチバレーの特別スポーツ推薦の機会を提供できるならば、彼女たちがバレーボール本来の意義を再認識でき、学費減免で学業にも勤しめるだけでなく、人材発掘を求めるビーチバレー界にとっても理想的な将来像が描けるといえるだろう。

他にもビーチバレーに向けたポジションはないだろうか。「リベロ」とビーチバレーとの相性の良さは既述のため、「セッター」層を取り上げたい。

まず前提として押さえておきたいデータが本ページ下の図3-3-2である。この図はビーチバレーをやってみての感想分類ごとに「今後もビーチバレーをしたいか」の率を比較したものである。該当人数の少ない「バレーボールが好き」を除くと、「競技の違いが新鮮」と回答した層ほど、ビーチバレーの魅力に惹き付けられていることがわかる。この点を念頭に次ページ上の図をご覧ください。

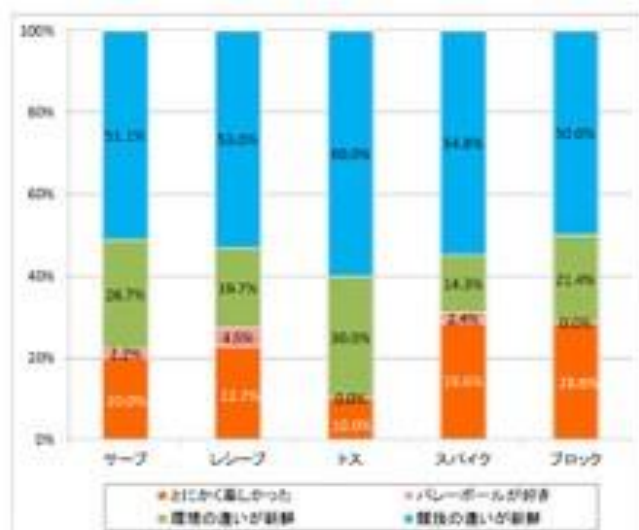


図3-3-3. 得意なプレー別ビーチバレーの感想



図3-3-4. ネガティブ要素別ビーチバレー意欲



図3-3-5. 近隣の環境有無別ビーチバレー意欲

この図3-3-3は、得意なプレー別にビーチバレーをしてみでの感想の違いを比較したグラフである。

前ページでビーチバレーの魅力が伝わった結果であると述べた「競技の違いが新鮮」が占める割合を比較すると、「トス」での率が60.0%と他を圧倒している。このことから、インドアのバレーボールとアウトドアのビーチバレーとの違いを最も強く意識するプレーはトスであり、このプレーを最も得意とするポジションである「セッター」にとっても、ビーチバレーは自身の新たな可能性を試す好機になりうると思われる。

このように明るい展望も開けつつあるビーチバレーだが、同時にその振興を妨げる要因の解決も急務である。

図3-3-4は、Q11に記述されたネガティブ要素ごとにビーチバレー意欲の値を集計した結果である。この結果において「ビーチバレーをしたくない」の率が30%を上回っているのは、降順に「①安全性への不安」「②ルール適応に不安」「③身体面での不安」の3つであった。

①への対策としては、ガラスや貝殻のないようにコートを整備すること、そのように整備されたコートでの滑り込みはインドア以上に安全であることを周知する必要がある。また足裏を火傷しないためのサンドソックスの装着ははじめ、熱中症対策も徹底しなくてはならない。

②は説明そして実演の場をより多く提供していかなければならないことを意味する。そして経験を通じてはじめて、③がどの程度のものかを実感を持って測ることができるようになるとと思われる。

最後に示す図3-3-5は、近隣のビーチバレー環境有無別のビーチバレー意欲である。この結果が物語るように、ビーチバレーをしたいと思えるかどうかは、その環境有無に大きく左右される。

強豪校女子バレー部員たちはビーチバレー界にとっても“金の卵”とも呼べる貴重な存在である。彼女たちの身近にビーチバレーに触れられる環境を準備できるかどうか普及・振興のカギである。

資料

資料1 アンケート送付先高校一覧

都道府県	No.	設置 区分	高校名
1 北海道	1	私立	旭川実業高校
	2	私立	札幌大谷高校
	3	私立	札幌山手学院校
2 青森	4	私立	弘前工業高校
	5	私立	弘前学院短期大学校
3 岩手	6	私立	盛岡誠信高校
4 宮城	7	私立	宮川学園高校
5 秋田	8	私立	山形国校
6 山形	9	私立	米沢中央高校
7 福島	10	私立	郡山女子大学附属高校
8 茨城	11	私立	常陸学院高校
	12	私立	大成女子高校
	13	私立	土浦日本大学高校
	14	私立	水戸女子高校
9 栃木	15	私立	栃南大学附属高校
	16	私立	作新学院高校
	17	私立	在野日本高校
10 群馬	18	私立	高崎実業高校
	19	私立	高崎健康福祉大学高崎高校
	20	私立	高崎経済大学附属高校
11 埼玉	21	私立	伊奈学園総合高校
	22	私立	深谷高校
	23	私立	川越高校
	24	私立	春日部共栄高校
	25	私立	埼玉栄高校
	26	私立	練馬学園高校
12 千葉	27	私立	柏南高校
	28	私立	幕張総合高校
	29	私立	柏南校
	30	私立	富沢野高校
	31	私立	船橋高校
13 東京	32	国立	筑波大学附属高校
	33	私立	飛鳥高校
	34	私立	江戸川高校
	35	私立	大田桜台高校
	36	私立	茗荷学園高校
	37	私立	国立高校
	38	私立	小田原高校
	39	私立	練馬高校
	40	私立	松町高校

都道府県	No.	設置 区分	高校名
10 東京	41	私立	上野高校
	42	私立	杉並高校
	43	私立	杉並総合高校
	44	私立	豊田(国)校
	45	私立	第一豊洲高校
	46	私立	東京経済高校
	47	私立	高倉高校
	48	私立	竹早高校
	49	私立	立川国際高校
	50	私立	国無高校
	51	私立	牛草高校
	52	私立	調布経済高校
	53	私立	国学院高校
	54	私立	小山高校
	55	私立	東大和高校
	56	私立	瑞正高校
	57	私立	町田高校
	58	私立	三田高校
	59	私立	奥平高校
	60	私立	武蔵五津高校
	61	私立	武蔵野北高校
	62	私立	豊谷高校
	63	私立	井田高校
	64	私立	大野高校
	65	私立	北豊島高校
	66	私立	井草学園高校
	67	私立	豊島臨海女子高校
	68	私立	東洋学園高校
	69	私立	下北沢南高校
	70	私立	経港高校
	71	私立	経港CC高等部
	72	私立	経港臨海高校
	73	私立	豊島女子高校
	74	私立	松陰高校
	75	私立	杉並学園高校
	76	私立	駒台学園高校
	77	私立	国学院大学第一高校
	78	私立	中央大学附属高校
	79	私立	神宮高校
	80	私立	東洋学園高校

都道府県	No.	設置 区分	高校名
13 東京	81	私立	東京電機大学短期
	82	私立	東京農業大学第一短期
	83	私立	東京立正短期
	84	私立	東京造形大学附属短期
	85	私立	中村短期
	86	私立	群像短期
	87	私立	日本大学駒ヶ丘短期
	88	私立	八王子学園八王子短期
	89	私立	八王子実践短期
	90	私立	立馬短期
	91	私立	富士見短期
	92	私立	富士見南短期
	93	私立	文化学園大学杉並短期
	94	私立	文化学院大学女子短期
	95	私立	文化学院短期
	96	私立	三鈴短期
	97	私立	立馬短期
14 神奈川	98	私立	相模短期
	99	私立	高澤会短期
	100	私立	国光短期
	101	私立	国光北短期
	102	私立	国光南短期
	103	私立	三井美短期
	104	私立	伊勢原短期
	105	私立	赤十字短期
	106	私立	有明短期
	107	私立	大磯短期
	108	私立	大和短期
	109	私立	神奈川工業短期
	110	私立	中央総合短期
	111	私立	上矢部短期
	112	私立	国光北短期
	113	私立	南短短期
	114	私立	藤沢北短期
	115	私立	津之島短期
	116	私立	相模南短期
	117	私立	府立短期
	118	私立	国光南短期
	119	私立	国光南短期
	120	私立	国光南短期
	121	私立	国光南短期
	122	私立	国光南短期
	123	私立	国光南短期
	124	私立	国光南短期
	125	私立	国光南短期

都道府県	No.	設置 区分	高校名
15 新潟	126	私立	新潟短期
	127	私立	新潟南短期
	128	私立	新潟南短期
	129	私立	新潟南短期
	130	私立	新潟南短期
	131	私立	新潟南短期
	132	私立	新潟南短期
	133	私立	新潟南短期
	134	私立	新潟南短期
	135	私立	新潟南短期
	136	私立	新潟南短期
	137	私立	新潟南短期
	138	私立	新潟南短期
	139	私立	新潟南短期
	140	私立	新潟南短期
	141	私立	新潟南短期
	142	私立	新潟南短期
16 山梨	143	私立	山梨南短期
	144	私立	山梨南短期
	145	私立	山梨南短期
	146	私立	山梨南短期
	147	私立	山梨南短期
	148	私立	山梨南短期
	149	私立	山梨南短期
	150	私立	山梨南短期
	151	私立	山梨南短期
	152	私立	山梨南短期
	153	私立	山梨南短期
	154	私立	山梨南短期
	155	私立	山梨南短期
	156	私立	山梨南短期
	157	私立	山梨南短期
	158	私立	山梨南短期
	159	私立	山梨南短期
17 長野	160	私立	長野南短期
	161	私立	長野南短期
	162	私立	長野南短期
	163	私立	長野南短期
	164	私立	長野南短期
	165	私立	長野南短期
	166	私立	長野南短期
	167	私立	長野南短期
	168	私立	長野南短期
	169	私立	長野南短期
	170	私立	長野南短期
	171	私立	長野南短期
	172	私立	長野南短期
	173	私立	長野南短期
	174	私立	長野南短期
	175	私立	長野南短期
	176	私立	長野南短期
	177	私立	長野南短期

都道府県		No.	設立 区分	高校名
27	大分	171	私立	大分国際通信高校
		172	私立	金剛会高校
		173	私立	国際大和国高校
		174	私立	臨光寺寺高校
28	兵庫県	175	私立	明石南高校
		176	私立	赤上高校
		177	私立	明徳学園高校
		178	私立	滝川第二高校
29	奈良	179	私立	奈良女子高校
30	和歌山	180	私立	和歌山成実女子高校
31	鳥取	181	私立	鳥取南高校
32	島根	182	私立	安寿高校
33	岡山	183	私立	就実高校
34	広島	184	私立	安部女子高校
35	山口	185	私立	就実高校
36	徳島	186	私立	城南高校
37	香川	187	私立	高松商業高校
38	愛媛	188	私立	聖カタリナ女子高校
39	高知	189	私立	高知中央高校
40	福岡	190	私立	北九州高校
40	福岡	191	私立	小倉東高校
		192	私立	小倉南高校
		193	私立	博多女子高校
		194	私立	東福岡高校
41	佐賀	195	私立	佐賀北高校
42	長崎	196	私立	九州文化学園高校
43	熊本	197	私立	熊本徳愛女子学院高校
		198	私立	新西高校
44	大分	199	私立	重九郎国府高校
45	宮崎	200	私立	延福学園高校
46	鹿児島	201	私立	鹿児島女子高校
47	沖縄	202	私立	西原高校

2014年8月

バレーボール部に所属する女子高校生の皆様へ

ビーチバレーに関するアンケート

産業能率大学女子ビーチバレー部は、在学中に国内トップツアーのMVPを獲得した、清江明香・石原アンジュの2選手を輩出し、在校生も「大学選手権優勝」、そして将来の「オリンピック出場」という高い目標を掲げて、日々練習を重ねています。

以前より知られるようになったビーチバレーですが、オリンピック種目であるながら、インドアのバレーボールに比べて観戦人口が少なく、まだ十分に普及しているとは言えない競技です。ビーチバレーが今以上に多くの方々に愛される身近な競技になるためには何が必要か、その課題を明らかにしたく、今回アンケートを実施させていただきます。率直なご意見をよろしくお願いいたします。

ビーチバレーボールU-21 日本代表
産業能率大学 女子ビーチバレー部主将
清水 友菜

※ 選択肢のある質問では、該当する項目の□にチェック(✓)を印します。

1. あなたは現在、高校何年生ですか？

☐ a. 高校1年生 ☐ b. 高校2年生 ☐ c. 高校3年生

2. あなたの身長はだいたい何 cm ですか？

() cm くらい

3. あなたは、いつ頃バレーボールを始めましたか？

☐ a. 小学校入学前 ☐ b. 小学校1・2年生 ☐ c. 小学校3・4年生
☐ d. 小学校5・6年生 ☐ e. 中学校入学後 ☐ f. 高校入学後

4. あなたの現在のポジションは何ですか？ 最も当てはまるものを一つだけお選びください。

☐ a. スパイカー ☐ b. センター ☐ c. セッター ☐ d. リベロ

5. あなたが一番得意とするプレーは何ですか？ 一つだけお選びください。

☐ a. サーブ ☐ b. レシーブ ☐ c. トス
☐ d. スパイク ☐ e. ブロック

6. あなたは、これまでにビーチバレーをしたことがありますか？

☐ はい (→7へ) ☐ いいえ (→9へ)

7. これまでにビーチバレーをしたことのある方にお聞かせします。

ビーチバレーをプレーしてみて、楽しかったですか？

☐ a. 楽しかった ☐ b. つまらなかった ☐ c. どちらともいえない

8. 前問の理由について、自由にお書きください。

9. 全員にお聞きします。ビーチバレーをやってみたいと思いますか？

※現在すでにビーチバレーをしている方は「はい」とお答えください。

☐ はい (→10へ) ☐ いいえ (→11へ)

10. ビーチバレーをやってみたい方にお聞きします。

どのような環境でビーチバレーをやってみたいですか？

最も当てはまる項目にチェックしてください。(回答後→11へ)

- ☐ a. オリンピック会場やプロの選手を目指し、本気で取り組みたい
☐ b. 全国大会出場を目指し、部活動として真剣に取り組みたい
☐ c. 地域のサークル活動等で、友達や部員を目的に楽しみたい
☐ d. 施設やレジャーの一つとして、気持ちに楽しみたい
☐ e. とりあえずやってみて、自分に合っているか確かめたい

11. 全員にお聞きします。ビーチバレー競技に対して、インドアのバレーボールに比べ、

抵抗感や不安な要素があるとすれば何ですか？ 自由にお書きください。(回答後→12へ)

12. 近くにビーチバレーのできる環境はありますか？

☐ はい (→13へ) ☐ いいえ/おからない (→14へ)

13. 近くにビーチバレーのできる環境のある方にお聞きします。

それはどのような環境でしょうか？ ※複数回答可 (回答後→14へ)

- ☐ a. 校内のビーチバレーコート ☐ b. 近所のビーチバレーコート
☐ c. その他 ()

14. 全員にお聞きします。あなたは高校卒業後の進路をどのように考えていますか？

第一志望の項目にチェックしてください。(回答後→15へ)

- ☐ a. 実業団 (Vリーグ) ☐ b. 進路 (一般社会人)
☐ c. バレーボール部員による大学進学 ☐ d. 一般受験による大学進学
☐ e. 短大進学 ☐ f. 専門学校進学 ☐ g. その他 ()

15. 高校卒業後、バレーボールは続けますか？ 最も当てはまる項目にチェックしてください。

- ☐ a. 競技として続けたい ☐ b. 趣味程度には続けたい
☐ c. 続けるつもりはない ☐ d. 未定

アンケートへのご協力、どうもありがとうございました。



**高校女子バレーボール部員対象
「ビーチバレーに関するアンケート」報告書**

2016年3月23日

産業能率大学スポーツマネジメント研究所

〒259-1197

神奈川県伊勢原市上粕屋1573

TEL 0463 (92) 2211

